

■第1回京橋駅周辺地域部会 主な意見と方針（素案）への対応

	主な意見	方針（素案）への対応
1	・ 大阪市の東の玄関口の京橋として、単なる拠点ではなく、<u>府域の中の成長を引っ張る拠点</u>として検討いただきたい。(①②③) ・ 特定都市再生緊急整備地域をめざすのであれば、日本の国際競争力の強化に資する形にすべきで、<u>インフラ整備</u>も含めてそれを提案していかないといけない。(②) ・ どのような国際競争力の強化に資する拠点を作りたいのか、民間側が普通の再開発ではなく国際競争力の強化に資する開発にするのか、<u>民間事業者の意向</u>がコンセプトの具体性には必要。(③)	◆P3 基本的な考え方 ① 大阪府・大阪市では、2025 年大阪・関西万博後に速やかに大阪の成長に向けた取り組みを実行に移すため、「万博レガシー」の継承や「世界で存在感を発揮する国際都市・大阪」の実現をめざし、都市魅力・観光やイノベーション等をテーマに新たな大阪の成長戦略「Beyond EXPO 2025」の検討を進めているところである。 ② また、当該地域においては、鉄道による地域分断や回遊性の確保に課題を抱える中、JR 片町線・東西線の地下化を契機とし、広域道路ネットワークを構築する豊里矢田線の整備促進、JR 大阪城公園駅周辺の歩行者空間の充実など地域内の回遊性の向上や人中心の空間整備の充実が期待できる状況である。 ③ こうした状況を踏まえ、大阪城公園周辺地域を新たなヒガシの拠点として位置付け、各エリアを一体的に捉え、「国際観光拠点の強化」「国際的なイノベーション拠点の形成や国際人材の育成環境の整備」「人・モノ・情報の交流の促進」をめざしていく。
2	・ ターミナル駅でありコネクティブをテーマに進めていくので、<u>滞在時間</u>をどう伸ばしていくのかの視点が必要。(①②) ・ 大阪城、寝屋川のグリーンのある京橋なら<u>環境の視点</u>もキーワードとして、低炭素や、カーボンニュートラルのまちづくり等、再先端のまちづくりも考えるのがよい。(①) ・ 国際競争力強化の観点から、オフィス環境、居住地の環境をチェックして<u>足りない機能を強化</u>していく必要があることをまちづくり方針で示し、民間都市開発を促していくことが必要。(①)	◆P4 目標1 ① 当該地域では、大阪城公園との近接性や交通利便性、各エリアの特性を活かし、民間開発等において、国際的な集客・交流、滞在、商業空間の導入や都心における豊かな緑、水辺空間の魅力の形成を図る。 ② あわせて大阪城公園の観光客を、地域内でより一層、回遊・滞在させることで、「国際観光拠点の強化」をめざす。
3	・ 国際競争力強化の観点から、オフィス環境、居住地の環境をチェッ	◆P5 目標2

主な意見	方針（素案）への対応
クして足りない機能を強化していく必要があることをまちづくり方針で示し、民間都市開発を促していくことが必要。(再掲)(①)	① 民間都市開発等にあわせて、国内外のイノベーション拠点の中核的な機能やベンチャー等のための共創空間の導入、さらには、国際的な人材の受け入れ、育成環境の充実を図り、ビジネス・イノベーションの創出の促進とともに、人材育成に寄与することにより、ICT を軸にした「国際的なイノベーション拠点の形成や国際人材の育成環境の整備」をめざす。
4 - ハード面の結節性について、アーバンプロムナード(新たな歩行者ネットワーク)の整備意義はすごく大きい。このプロムナードにより京橋、OBP、大阪城公園、大阪公立大学などの周辺拠点がつながり、新大阪、けいはんな学研都市、関空などの広域とつながり、まちの玄関口として「駅」と「まち」がつながる。国際競争力の向上という点で、「駅」と「まち」がつながる整備が必要と思う。(①②⑦) - コネクティブシティでつながるといところが大事で、この課題解決を一緒に実証していく形にしていくというところで、実証の場はここにあるという横の連携ができればと思っており、まち全体でブランディングできればと思う。(①、④～⑩) - ターミナル駅でありコネクティブをテーマに進めていくので、<u>滞在時間</u>をどう伸ばしていくのかの視点が必要。(再掲)(②) - 京橋公園の地下にあるコムズガーデンは万博に向けて全面的なリニューアルを計画しており、京橋公園の再整備とあわせて一体性のある居心地のよい空間整備をできればと思う。(②) - 京橋はインフラの充実が重要であるが、単なる広場やデッキではなく、その空間が<u>イノベーションにつながる新しいインフラの概念</u>にまで発展させていく視点が必要。(④⑤) 4	◆P7、8 土地利用の方針 [大阪京橋駅周辺・大阪ビジネスパーク駅周辺] ① 大阪第 4 のターミナルである大阪京橋駅周辺では世界や関西広域拠点を大阪でつなぐヒガシの玄関口として、また、特徴ある周辺エリアと大阪京橋駅周辺をつなぐ Connective City 京橋の実現をめざす。 ② 駅前では、国内外からの観光客を呼び込む集客施設や滞在を促す宿泊施設などの複合開発により、「国際的な集客・滞在・商業空間」及び「賑わい拠点」の形成を図る。 ③ 大阪城公園の観光客の受け皿となる国際的なホテルと周辺地域が連携した国際的なプロモーションの展開を図る。 ④ 当該エリア全体において、民間都市開発や既存ビルのリノベーションにあわせた共創空間の導入とともに、周辺での界限性のある賑わい空間も活用しながら、「スタートアップ・ベンチャーエリア」の形成を図る。 ⑤ ICT 関連を中心とした企業・人材の集積やイノベーションを想起・誘発させる共創空間等の既存施設を活かし、大阪公立大学や海外企業など多様なパートナーと連携したビジネス・イノベーションの創出を図る。 ⑥ 近接する大阪公立大学などと連携し、エリアのプラットフォームを立ち上げ、公開空地や公共的な空間を活用した実証フィールドとなる環境を構築する。 ⑦ 駅とまちが一体化したまちづくりの推進を行い地域の課題解決とともに、広域交通

主な意見	方針（素案）への対応
・どのような国際競争力の強化に資する拠点を作りたいのか、民間側が普通の再開発ではなく国際競争力の強化に資する開発にするのか、民間事業者の意向がコンセプトの具体性には必要。(再掲) (②～⑥) ・OBP や NTT 西日本のイノベーションに係る取り組みを、大きく支援するような取り組みができないか。それらを具体的に展開するために、例えば大学の研究機関等がサテライトを出して、そこを活用してイノベーションを起こしていく等の活動を支援していくことも可能性としてある。(④～⑥) ・国際競争力強化の観点から、オフィス環境、居住地の環境をチェックして<u>足りない機能を強化</u>していく必要があることをまちづくり方針で示し、民間都市開発を促していくことが必要。(再掲) (④～⑥) ・公開空地や建築協定といった外部環境の豊かさという面で、他の業務エリアと違う。ビジネス街として外部環境の豊かさをうまく活用していく必要がある。(④～⑥) ・ICT を使った社会実験などの連携をして OBP で事業展開を実証実験することや SNS 等を活用した情報の共有による利用促進を図っていく等、機能面でのネットワーク強化も図りたい。(④～⑥) ・京橋全体としてコネクティブで引き出していけるような取組を具体化してもらいたい。また、様々なプレイヤーが活用できるプラットフォームを構築して、新しい都市のビジネスを展開してもらいたい。(⑥)	拠点とアクセス強化に資する「人中心の駅前空間・拠点」の形成を図る。 ⑧ 歩行者主動線の再構築により「新たな歩行者ネットワーク」の形成を図るとともに、大阪城公園から大阪ビジネスパーク駅周辺、京橋駅周辺をつなぐ安全で快適な動線を確保するため、「大阪京橋プロムナード・パークアベニュー」における美装化等のウォークアブル空間の充実を図る。 [森之宮周辺(大阪城東部地区)] ⑨ 大阪公立大学を先導役にして、観光集客・健康医療・人材育成・居住機能等の集積により、多世代・多様な人が集い、交流する国際色あるまちを目指し、「大阪城東部地区のまちづくりの方向性」(令和4年大阪府・市策定)に基づく取組を推進する。 ⑩ また、イノベーション・コアゾーンを中心とした1.5期開発エリアについては、「1.5期開発の開発方針」(令和6年大阪府・市策定)に基づき、新駅・駅前空間、大規模交流・集客空間、1.5期キャンパスの整備を進める。
5 ・大阪城、寝屋川のグリーンのある京橋なら<u>環境の視点もキーワード</u>として、低炭素や、カーボンニュートラルのまちづくり等、再先端の	◆P7 土地利用の方針(取組例) ① 緑豊かなオープン空間の整備

	主な意見	方針（素案）への対応
	まちづくりも考えるのがよい。(再掲)(①③) ・ 駅、商業、業務機能が集積し多くの人が集まるエリアなので、今回の都市再生の部会の設置を契機に帰宅困難者対策の対応などの防災も検討していただきたい。(②)	② 災害時における帰宅困難者や一時避難者を受け入れる避難スペースや体制等の整備 ③ カーボンニュートラルに向けた、環境に配慮した機能の導入
6	・ 特定都市再生緊急整備地域をめざすのであれば、日本の国際競争力の強化に資する形にすべきで、<u>インフラ整備</u>も含めてそれを提案していかないといけない。(再掲)(①②④⑥⑦) ・ コネクティブシティ京橋としてつないで連携することで、全体の価値向上につながっていく。オンデマンドバス等の新たなモビリティを活用し、京橋、OBP、大阪城公園、大阪城東部などの様々なエリアを物理的につなぐことで、人や情報の移動を活発にして地域全体の魅力向上に寄与したい。(①～④) ・ <u>バリアフリー</u>を検討の要素に組み込むのがよいと思う。(⑤)	◆P10、12 基盤整備の方針 [大阪京橋駅周辺・大阪ビジネスパーク駅周辺] ① 地域分断の解消や駅機能の集約化等に伴う利便性の向上を図るとともに、土地利用価値の向上に資するよう①JR 片町線・東西線の別線地下化(連続立体交差事業)の再開に向けて取り組む。 ② これに伴い関西広域や周辺地域をつなぐ道路ネットワークの強化とともに当該地区内の自動車交通の通過交通を抑制するため、②都市計画道路豊里矢田線を整備促進する。 ③ 地区内交通については、片町茨田線及び石切大阪線と豊里矢田線の接続により、アクセス性の向上を図るとともに、③地区内の南北道路を新設し、円滑化や地区の活性化を図る。 ④ また、関西国際空港方面等とのバス路線や、大阪城周辺の各エリアを結ぶ新たなモビリティやタクシー等の④交通結節点となる南北の駅前ロータリーを整備する。 ⑤ 利便性・安全性に優れた歩行者ネットワークの再構築をめざし、面的なバリアフリー化を図りながら、新たな⑥歩行者ネットワークを整備する。 [森之宮周辺(大阪城東部地区)] ⑥ 「大阪城東部地区のまちづくりの方向性」に基づく取り組みを推進する。 ⑦ また、イノベーション・コアゾーンを中心とした1.5期開発エリアについては、「1.5期開発の開発方針」に基づき、歩行者空間の整備を進める。2期開発に向け、多世代居住複合ゾーンにおける土地利用などの検討を進める。
6		